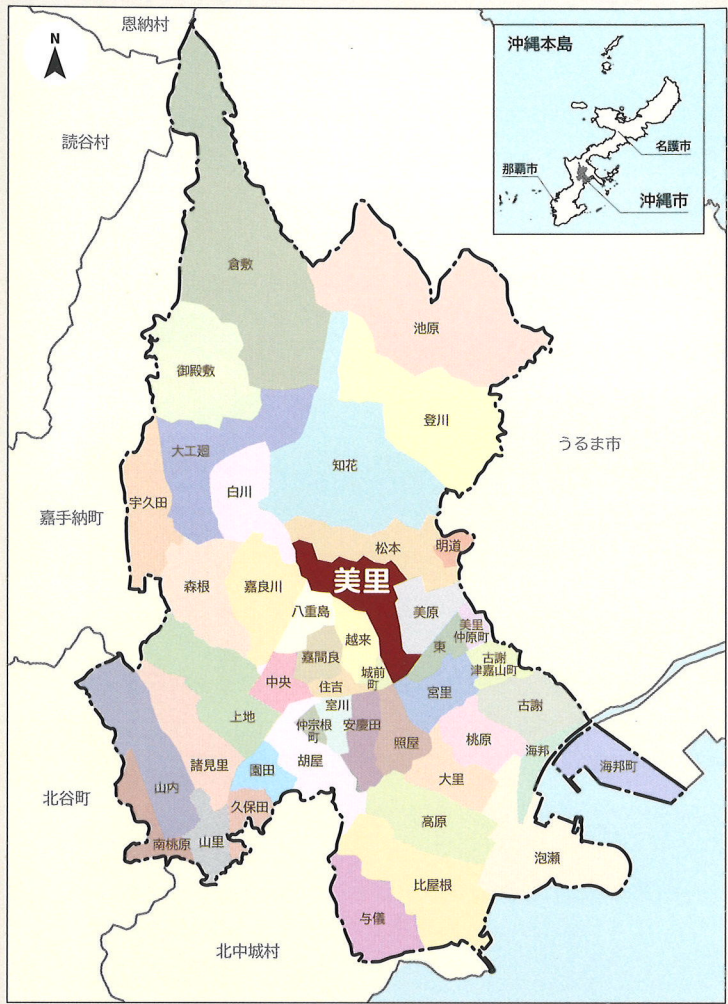
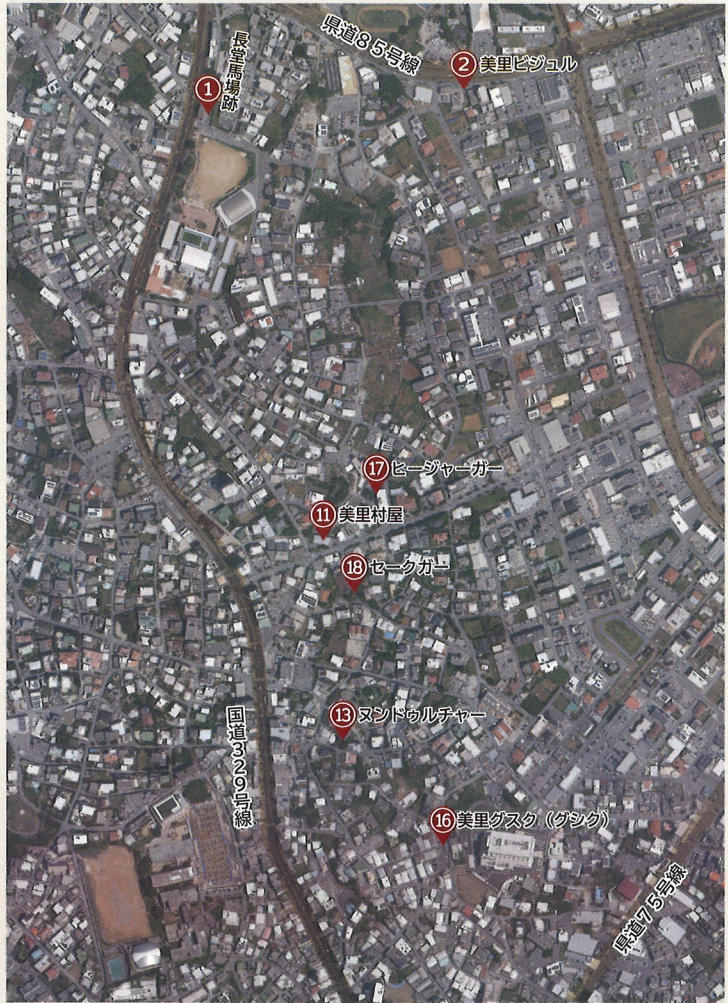


美里の位置



2020年の美里集落



空撮画像出典：沖縄市撮影(令和2年)



沖縄市文化財マップ 美里地区

2024(令和6)年3月 発行

編集：沖縄市立郷土博物館

発行：沖縄市教育委員会

沖縄市立郷土博物館

沖縄市上地2-19-6 文化センター3階

☎ 098-932-6882

あいている日 火～日曜日 9:00～17:00

やすみの日 月曜日、祝日、6月23日、12月29日～1月3日



博物館Website

沖縄市文化財マップ

美里地区

美里集落について

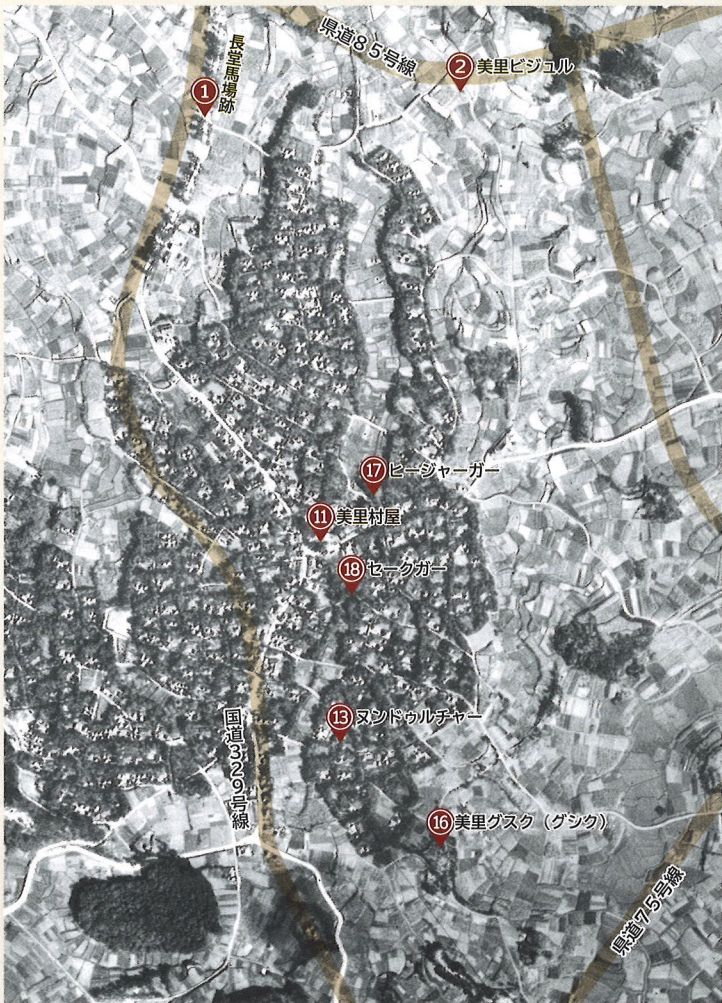
美里は沖縄市の中央部に位置する集落で、国道329号線沿いの東側に旧集落が広がっています。国道の西側には越来の旧集落が広がり、美里集落は越来集落と道を挟んで隣り合っているかたちです。

美里は方言でンザトゥと言いますが、イリバルと呼ばれていた時期もあります。

琉球国時代の1666年、越来間切から分離して美里間切が設立されると美里集落には番所が置かれ、ンザトゥドゥムラ（美里同村）と呼ばれました。一方、越来間切時代の史料『絵図郷村帳』では美里集落は「西原村」の名前で書かれています。美里間切設立後の史料では、「西原村」と「美里村」の両方が見られます。近代に入ると美里間切は美里村となり、美里集落は西原という字名になりました。太平洋戦争後の1946年に字名が美里へ変更され、現在に至っています。

1980年代、集落東側の農地に区画整理事業が実施され、現在は美原地区として整然とした住宅街が広がります。しかし美里集落には今も昔ながらの道筋や、いくつかの拝所や井戸などが残り、沖縄の伝統的な集落のたたずまいを伝えています。

1945年2月の美里集落



空撮画像出典：沖縄県公文書館所蔵『米軍撮影空中写真 ON24146 054-1』

① 長堂馬場跡
 ながどう ば ばあと
 かつて馬を競わせる馬勝負(ウマスブ)が行われた場所です。速さではなく足並みの美しさで勝負したそうです。

② 美里ビジュアル
 みさと
 地域の拝所です。旧暦9月に行われていたムヌメーの行事のときに拝まれていたそうです。

③ イジュンガー
 かつてここにカー(井泉)がありましたが、現在は石碑だけが置かれています。

④ ハル石(印部石 さ さく原)
 いし しる べいし バル
 沖縄市指定文化財 2016(平成28)年3月2日指定
 首里王府により行われた「元文検地」(1737～1750年)と呼ばれる土地測量の際に各地に設置された石です。当時の測量の状況を知るうえで貴重な文化財です。

⑤ キツチャガー
 農業用水や生活用水として利用されたカー(井泉)です。

⑥ ジナンヌシチャヌカー
 生活用水として使用したといわれている井戸です。ニープガーとも呼ばれます。ニープとは柄杓のことで、柄杓で汲む井戸をニープガーと呼びます。

⑦ サークヌカー
 周辺で敷石と思われる遺構が見つかったといえます。ニープガーとも呼ばれます。

⑧ 銀山御嶽
 ぎんざん ウタキ
 地域の拝所です。ウマチーのときに6番目に拝まれる場所です。

⑨ シチャヌウカー
 カルスト残丘の下から湧く湧き水です。また、拝所としてウマチーのときに7番目に拝まれます。

⑩ ヒージャーガー池跡
 いちあと
 家畜に水浴びをさせた池です。大きくて深い池で、周囲にはガジュマルが生えていたそうです。



⑪ 美里村屋
 ンザトゥ ムラ ヤー
 国登録有形文化財 2014(平成26)年4月25日登録
 1954(昭和29)年に建築されました。伝統的な沖縄の木造建築の特徴と、当時まだ珍しかった技術が組み合わされています。

⑫ メーデーガー
 農業用水として利用されている湧き水です。メーデーは近くの家の屋号を取って呼ばれたものという説があります。

⑬ ヌンドウルチャー
 ノロに関わる拝所です。ウマチーのときに4番目に拝まれる場所です。中には火の神(ヒヌカン)の石が祀られています。

⑭ 仲元前のカーグワー
 ナカムトゥー メー
 主に生活用水として使用されていた井戸です。ニープガーとも呼ばれます。

⑮ グシクヌニー井戸
 いど
 ノロが使用したともいう井戸です。ウマチーのときに3番目に拝まれる場所です。

⑯ 美里グスク(グシク)
 ンザトゥ
 地域の拝所です。グシクと呼ばれていますが、石積みなどは無かったそうです。ウマチーのときに2番目に拝まれる場所です。

⑰ ヒージャーガー
 沖縄市指定文化財 1994(平成6)年9月22日指定
 ヒージャーガーは湧水を樋でひいて利用する井戸のことです。1895(明治28)年生まれの地元の古老が物心ついた時にはあったといわれています。ウマチーのときには拝所として5番目に拝まれます。また、子どもが生まれたときに産湯に使う水を汲む井戸(ウブガー)として利用されました。昭和初期までは飲料水にも利用されたほか、洗濯場としても毎日賑わっていました。下流は水田の苗床の水に利用されました。

⑱ セークガー
 沖縄市指定文化財 1994(平成6)年9月22日指定
 ヒージャーガーと同じく湧水を樋でひいて利用する井戸ですが、なぜセークガーと呼ばれているのかは分かっていません。1895(明治28)年生まれの地元の古老が物心ついた時にはあったといわれています。昭和初期までは住民の飲料水として用いられており、洗濯場としても毎日賑わっていました。

地図について:地理院地図(国土地理院)を元に沖縄市立郷土博物館が編集を加えています。